

## 2023 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	明治期日本の対外進出と医学者
キーワード	①大陸政策、②医療・衛生事業、③医学者

### 研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	ヒナタ レオ 日向 玲理
配付時の所属先・職位等 (令和5年4月1日現在)	青山学院大学附置青山学院史研究所・助教
現在の所属先・職位等	青山学院大学青山学院史研究所・助教
プロフィール	2015年駒澤大学大学院人文科学研究科歴史学専攻博士後期課程単位取得退学。明治期日本が医療・衛生事業を通じてどのような大陸政策を展開しようとしていたのかについて、陸軍衛生部や医学者などに着目して研究しています。

### 1. 研究の概要

本研究は、明治期における日本の対外医療事業について、医学者の対外認識と行動に注目しながら、その展開過程と政府の政策との関係を考察した。本研究でいう医学者とは、帝国大学・文部省直轄諸学校の教員を頂点とする、学生、卒業生（医学士・得業士）、開業医までを含むピラミッド型のネットワークを指している。一定の時系列を設定して個々の事例に関与した人物や地域の固有性を重視する歴史学的手法を活かして、植民地統治以前からの医学者たちの対外認識と行動を明らかにすることで、植民地統治の歴史についても原点から描き出すことを目指した。

### 2. 研究の動機、目的

近代日本の植民地統治は、日本史にとどまらない東アジア史、グローバル・ヒストリーの分析対象として、研究が進められてきた。既存の研究は、植民地統治機関による支配の回路として医療や公衆衛生を捉える傾向にあり、取り扱われる時期も日清戦争後（台湾）、韓国併合後（朝鮮）に集中していた。植民地化以前、具体的には明治政府の成立から日清戦争までの時期（1868～1894年）に、日本が台湾や朝鮮で展開した医療事業については、植民地統治の「前史」として扱われるに過ぎなかった。

こうした評価に疑問を抱いた申請者は、植民地統治以前の対外医療事業に関して概説的な説明で済ませることのできない問題があるのではないかと考えた。例えば、台湾に関する先行研究では、植民地統治下における医療・衛生事業が比較的スムーズに行なわれたと評価しているが、その理由を台湾総督府民政長官後藤新平（医師としても活躍）の卓越した手腕に求めている。本研究では、後藤の行政手腕の高さも認めつつも、後藤が手腕を発揮できるような素地が既に形成されていたのではないかと考えた。具体的には、植民地統治前の医学者たちによる活動や、それを通して蓄積・共有された知見や経験などが存在していたのではないかとということである。このような仮説を立てて、次の二点を解明しようと試みた。

（1）医学者はいかなる動機で台湾や朝鮮において医療事業を展開したのか。彼らは学術的関心や社会事業としての重要性を意識しながら当該地に渡ったと想定されるが、そのことを政府の政策と関連づけて分析する。

(2) 医学者の知識・経験はいかにして蓄積されていくのか。医学者が台湾や朝鮮で得た知識・経験が雑誌や講義を通して医学関係者や医学生に伝達されていく過程を検証したい。具体的には、医学系団体や医学部を擁する学校が発行した雑誌を主な考察対象として、医学者の活動を中心に内地—植民地間の知的還流の一端を検討する。

### 3. 研究の結果

(1) 明治政府は、医療・衛生事業を通じて台湾や朝鮮に在住する日本人だけではなく、現地の住民に対して日本に対する信頼の醸成を図ろうとしていた。そこで直接的な役割を果すが、医学者であった。また、教育制度の発展によって多くの医学生が誕生するようになり、日本内地で就業するだけでなく、外地での就職も視野に入るようになっていった。教員たちは、海外での開業なども進路選択の一つであることを医学生らに勧めるようになった。

(2) 『校友会雑誌』(千葉)、『校友会雑誌』(京都)、『東北医学会会報』(仙台)、『研瑤会雑誌』(長崎)、『十全会雑誌』(金沢)といった医学専門学校(現在の千葉大学医学部の前身校など)が発刊する雑誌の「雑報欄」「通信欄」を網羅的に分析した。その結果、①雑誌の寄贈・交換が行われていたこと、②台湾や朝鮮に関する記事が多い学校とそうではない学校があるという明確な差異があることが明らかになったこと、③台湾や朝鮮に積極的に進出していくべきだとする見解が出されていたことである。ここには、両地域に日本が「文明」の象徴である医療・衛生事業を展開していかなければならないという志向性が見い出せる。こうした認識が雑誌を通じて在校生や卒業生に伝達・共有され、また、雑誌交換を通じてその認識が他校にも連鎖していくこととなる。その相互作用によって医学者や医学生が台湾や朝鮮における医療・衛生事業に従事していく動機づけになった。

(3) 上記のような研究成果を得ることができたが、今回の調査の過程で、当初予期していなかった新しい発見があった。対象地域を台湾及び朝鮮にしていたが、史料調査や雑誌の網羅的な分析を通じて、シンガポールや暹羅(東南アジア)方面にも医学者(医師)が進出していることが明らかとなった。このことは、医療・衛生事業の展開がより広域的な展開をみせていたことを示すものであり、東アジア史よりも広い枠組みでの分析が可能となるのではないかと思われる。

### 4. 研究者としてのこれからの展望

今後も教育・研究活動に責任と幅広い視点をもって従事していきたいと思います。悉皆的かつ徹底的な史料調査を基盤にした研究が重要だと考えておりますので、引き続き堅実な研究を発表できるように努めます。個人研究とともに、問題意識を共有する研究者との共同研究も積極的に行えるような人材を目指したい。また、教育者として後進の育成にも取り組めるように努めたいと思います。

### 5. 支援者(寄付企業等や社会一般)等へのメッセージ

今回、若手研究者奨励金を受けることができたことに心より感謝を申し上げます。様々な史料所蔵機関で史料を閲覧するなかで、思いがけない発見があり、新たな着想も浮かんできました。非常に有意義な調査となりました。今後は日々研鑽を重ね、論文や書籍などのかたちで社会に還元できるよう努力していく所存です。